

# 令和4年度 ナラティブと質的研究分科会活動報告

代表 やまだようこ  
報告 浦田 悠・神崎真実

## 1. 集会等の活動

以下の活動を当研究分科会の主催および共催で開催した。

※登壇者の所属等はイベント当時のものである。企画趣旨、概要等は、企画時の内容をそのまま掲載している。

### ■ 日本発達心理学会第33回大会関連団体企画シンポジウム「ビジュアル・ナラティブの理論：イメージ、記号、ビジュアル言語」

- 開催日：2022年3月6日（日）
- 場所：オンライン（Zoom）開催
- 主催：ナラティブと質的研究分科会
- 司会者，指定討論者：家島 明彦（大阪大学）
- 話題提供者：やまだ ようこ（立命館大学）・横山 草介（東京都市大学）・中澤 潤（植草学園大学）・木下 寛子（九州大学）

#### ● 企画趣旨

ナラティブ(narrative)とは、経験を組織化する意味の行為と定義されるが、従来は(狭義の)言語によるもの語り研究が研究されてきた。私たちは「ビジュアル・ナラティブ(視覚イメージによるもの語り)」によって、ナラティブ論の言語中心主義からのビジュアル・ターンを試みてきた。視覚イメージも、広義のことば(記号システム)と考えるからである。それでは、記号・意味作用(signification)において、視覚イメージはどのような位置をもつのだろうか。視覚イメージと言語、表象(representation)や比喩と言語、絵と文、空間的な視覚イメージと時系列をもつストーリーなどは、どのような関係にあると考えたらよいのだろうか。ネルソン・グッドマン『世界制作の方法』『芸術の言語』、ロラン・バルト『映像の修辞学』、ニール・コーン『マンガの認知科学』などを基礎文献として読み解きながら、ビジュアル・ナラティブの理論を考えてみたい。

### ■ ビジュアル・ナラティブの基本文献を読む会 特別編

- 日時：2022年3月17日（木）
- 主催：ナラティブと質的研究分科会
- 場所：オンライン（Zoom）開催
- 企画：家島明彦（大阪大学）・やまだようこ（立命館大学）・横山草介（東京都市大

学)

- 概要

これまでの読書会、および、日本発達心理学会シンポジウムの続きを議論します。これまでの全てに参加していなくても参加していただけますので、興味のある方は是非ご参加ください。

- 日本質的心理学会第19回大会会員企画シンポジウム「映画とビジュアル・ナラティブ：『ドライブ・マイ・カー』の映像、身体、言葉」

- 日時：2022年10月30日（日）
- 企画・司会： 家島明彦（大阪大学キャリアセンター）
- 企画・話題提供： やまだようこ（立命館大学 OIC 総合研究機構）
- 話題提供： 細馬宏通（早稲田大学文学学術院）
- 企画・指定討論： 横山草介（東京都市大学人間科学部）
- 企画趣旨

ビジュアル・ナラティブとは、映像イメージによってももの語る行為をさす。語り行為は、狭義のことばだけではなく、映像や身体を含めた広義のことばによって行っていることに、もっと注目すべきであろう。企画者たちは、ナラティブやコミュニケーションにおいて言語中心主義からのターンが必要ではないかと考え、ビジュアル・ナラティブのシンポジウムを継続して行ってきた。

今回は、映画とビジュアル・ナラティブについて考えてみたい。映画は、認知や感情や身体に直接的に働きかけ、観客にさまざまな問いを投げかけてくれる興味深い媒体である。特に「ドライブ・マイ・カー」は、国際的に高い評価を受けた優れた作品というだけでなく、心理学者にとってもきわめて興味深い視点を多々提供してくれる。

そこで、映画「ドライブ・マイ・カー」を媒介にして、ビジュアル・ナラティブの研究者と身体コミュニケーションの研究者が、共同生成的な対話を交わす場をつくってみたい。本シンポでは、映画そのものを論じるよりも、映画を媒介にして「ことばとは何か?」「自己とは?」「他者とは?」「ことばと身体の関係」「映像と言語の関係」など、本質的で原理的な問題を考えたい。

ことばと動作、それぞれ違った立場、違った方法論で、二人の研究者がこだわってきたコミュニケーションというテーマに関して、ものの見方や方法論など、広く深く、自由に奔放に語りあってみたい。

もの語りは、「生まれるもの」「生きもの」である。その場の出会いで生まれる「生のことば」「生きたことば」による一回性の共同生成の対話を楽しんでみよう。

## ■ 映画とビジュアル・ナラティヴ：映画『ドライブ・マイ・カー』を語る

- 日時：2022年11月27日（日）
- 場所：Zoom ミーティング
- 主催：ナラティヴと質的研究分科会
- 企画：横山草介（東京都市大学）・家島明彦（大阪大学）・やまだようこ（立命館大学）
- 企画趣旨

ビジュアル・ナラティヴは、映像イメージによってももの語る行為を指します。語り行為は、狭義のことばだけではなく、映像や身体を含めた広義のことばによって行われていることに、私たちはもっと注目する必要があります。企画者たちは、ナラティヴやコミュニケーションについて言語中心主義からの転回が必要ではないかと考え、ビジュアル・ナラティヴのシンポジウムを学会や研究会を通して継続して行ってきました。今回の研究会では、2022年10月30日に催された日本質的心理学会 第19回大会における企画者たちによるシンポジウムの延長として「映画とビジュアル・ナラティヴ」について考えを深めたいと思います。映画は、認知や感情や身体に直接的に働きかけ、観客にさまざまな問いを投げかけてくれる興味深い媒体です。とくに濱口竜介監督作品『ドライブ・マイ・カー』は、国際的に高い評価を受けた優れた作品というだけでなく、学究においてもきわめて興味深い視点を提供してくれます。今回の研究会では、映画『ドライブ・マイ・カー』を媒介にして、やまだようこ先生（立命館大学）、細馬 宏通先生（早稲田大学）の話題提供を皮切りに、参加者の皆様と『ドライブ・マイ・カー』をめぐる対話を共有したいと思います。ご参加にあたって『ドライブ・マイ・カー』をご視聴頂けますと当日のやりとりがより楽しめると思いますが、視聴は必須ではありませんので関心のある方は、遠慮なくご参加ください。

## 2. 分科会関連団体の活動

### ■ 分科会関連研究会「ビジュアル・ナラティヴ研究会（はなさろん）」

- 本分科会の関連研究会として、「ビジュアル・ナラティヴ研究会（はなさろん）」を立ち上げ、ビジュアル・ナラティヴに関連する研究データを持ち寄って議論する場を2020年11月より月1回実施している。
- 今年度は、8月26日～27日に「ふるさと絵屏風」の活動について現場の実践者から学ぶための、「ビジュアル・ナラティヴ合宿研修」を滋賀で開催した。

## 2. メーリングリストによる研究交流

研究会専用のメーリングリスト（[narrative123@googlegroups.com](mailto:narrative123@googlegroups.com)）を利用して、会員の

交流と情報交換・情報発信を行った。現在（2022 月 4 月 21 日時点）までに会員は 275 名となり、全国組織として学際的なメンバーで活発な情報交換を行った。

### 3. ウェブサイトおよび各種 ML による情報発信

研究会の概要や入会に関する情報については、代表のやまだようこのウェブサイト（2020 年度より <https://yoko-yamada.jimdosite.com/>）に研究会のページを作成し、発信している。また、研究会開催の情報については、上記メーリングリストの他、各種関連学会での ML やウェブページでの広報を行っている。